

電動アシスト自転車を用いた散在する観光素材の有効活用について

指導教員：金沢星稜大学経済学部特任教授・捧富雄／准教授・佐野浩祥／北陸大学未来創造学部教授・長谷川孝徳

参加学生：（金沢星稜大学）赤倉祥生、浅田一、中駿太郎、川邊靖也、齋藤俊也、下出浩生、平野恭一郎、藤井翔太、不破祐輝、山本尚輝、WANG Weirui、阿閉志帆、小村真穂、的場峻篤、山本悠生、DIAO Yiran、LI Siyang、川北優里奈、信濃修介、島田康平、立野郁也、手塚彩織、直江恒典、中川椿、中谷一世、南萌々夏、山口和樹

（北陸大学）三浦祐太郎、内山芽衣、大屋侑加、勝田祐美、北嶋紗穂、木下琴莉、呉座谷万莉、作田菜津美、澤田雅史、砂地麻里菜、中田理恵、野口彩香、水野花菜、山川映美、良原倫華、吉本早織、夏博、呉美慧、沈陳悦、孫婉童、趙娟娟、陳思セン、陶佳宇、馬剣喬、羅逸翔、劉一竜、織田健一朗、野屋成美、今井大樹、今井成美、上田千尋、静岡朋希、高井麻妃、武島杜恵、種池剛志、寺田朋矢、出村花、樋井菜々花、別宗寛治、水上碧、室田奈々加、湯浦早希

1. 調査研究成果要約

能登や加賀地域には魅力のある観光資源が数多く賦存しているが、それらを巡る交通手段の整備が十分ではないことが、誘客可能性を発揮できない一因と考えられる。本調査研究では、七尾市（和倉温泉）地区、羽咋市地区、加賀市・白山市地区を対象として、電動アシスト自転車を活用した観光コースを各地区ごとに策定し、利用促進のためのマップ作成や課題の整理などを行った。

2. 調査研究の目的

2.1 調査研究の背景

人口減少・少子高齢化などの課題をかかえる全国の地方都市において、いかにして地域を再生させるかは喫緊の課題であり、その対策として近年、観光による地域振興が注目されている。本県には、2015年3月の北陸新幹線開業以降、多くの観光客が訪れているが、能登地域と加賀地域においては、金沢市に集中する観光客をいかに自地域へ誘導するか、その有効策を模索している。能登や加賀に賦存する観光資源は少なくないものの各地に散在しており、これらを巡る交通手段が十分とは言えないことが、その誘客可能性を発揮できていない要因のひとつと考えられる。こうした点を改善し、本県に来訪する観光客を県内全域的に平準化させることは、県全体の課題ともいえよう。

2.2 調査研究の目的

前述した課題に対応するため、本調査研究では、バッテリーの改良などによって使いやすさが高まっている電動アシスト自転車を用いて、散在する著名な観光資源や、これまで観光素材として十分活用されていなかった地域資源を巡る観光ルートを探索することにより、対象地域の観光魅力を高めるための提案を行うことを目的とする。

2.3 調査研究の特色

本調査研究の主な特色は、①県内の2大学が連携し、未来創造学部と経済学部という専門性の異なる学生がそれぞれの視点で相互に検討することで、多面的な調査研究を可能にし、魅力的な提案を引き出そうとする点、②JRと北陸3県が主催する「北陸カレッジ」事業を活用し、県内と県外の学生による共同調査を行うことにより、観光にとって重要な「外の目」を意識しながら調査研究を進めようとする点、③電動自転車の活用を推進しようとする県の意向や地元自治体の意向を踏まえて実現可能な政策提言を行う点、である。

3. 調査研究の内容

本調査研究は、全体での研修のほか、加賀市・白山市、七尾市、羽咋市の3地区を対象として行った。全体研修の内容および各地域の調査研究の内容は以下の通りである。

3.1 全体活動

3.1.1 全体研修

各地での調査研究活動を行うにあたって、2017年7月2日（土）に3ゼミナールで合同研究会を開催した。当日は、電動アシスト自転車の特性や、自転車を活用した観光プランの造成について、それぞれ専門家の講義を受けた後、関係市町の担当者らと意見交換を行った。

3.1.2 北陸カレッジ事業との連携

8月22日（月）に「ホテル金沢」で「代表者会議」を行い、関西や首都圏からの参加学生及び、北陸カレッジに参加する石川県・福井県の大学生の代表が集まり、事業への取組み姿勢などを発表した。その後、他のゼミナールメンバーと合流し、8月22日～24日の2泊3日で、関西の大学生とともに各地区の現地調査を行った。



「北陸カレッジ」との合同調査

3.2 地区別での活動

3.2.1 七尾市（和倉温泉）地区（主担当：金沢星稜大学 捧ゼミナール）

七尾市地区は和倉温泉を中心とした自転車観光コースや整備すべき事柄などを提案するために、自転車旅行に関する先進各地の受入れ対策や現状などについてグループ別に文献調査を行い、その結果を相互に発表し知識の共有化を図った。また、6月25日（土）、8月11日（木）、8月22日（月）～8月24日（水）および11月27日（日）に現地調査を行った。

6月25日は、電動アシスト自転車による観光コースを提案するための基礎調査として、和倉温泉および七尾市の観光や自転車利用の現状や地元としての要望などを伺った後、グループに分かれて和倉温泉地域内を自転車で巡り観光ポイントを調査した。8月11日は5チームに分かれ、能登島・七尾市街・田鶴浜の3つのコースを自転車で巡り、観光コースを提案するための基礎調査を行った。8月22日～24日は、「北陸カレッジ」に参加している和歌山大学の学生と一緒に、3グループに分かれて合宿形式で調査と観光ルートなどの検討を行い、「能登島コース」「七尾市街コース」「田鶴浜・赤蔵山コース」の3コースのプラン提案に向けた検討結果が提示された。11月27日は全員一緒にバスで提案する3コースを巡り、自転車で巡る際の注意点や標識の有無などの最終確認を行った。

3.2.2 羽咋市地区（主担当：金沢星稜大学 佐野ゼミナール）

電動アシスト自転車を用いた周遊観光プランを提案するための基礎作業として、羽咋市内に賦存する観光資源の調査を実施した。羽咋市役所商工観光課の谷村信弥氏によるレクチャーや、市販の観光ガイドブック、各種地図、観光客の口コミサイト等の活用によって羽咋市内の観光資源に関する情報を整理した上で、現地に赴き、実際に電動アシスト自転車を用いて市内各所を視察調査したほか、地域住民へのヒアリング等により、羽咋市内の観光資源を網羅的に把握することができた。特に、8月22日から24日にかけて合宿形式で和歌山大学の学生らとともに集中的に調査を実施した結果、観光ルートの提案を見据えた具体的な成果をあげることができた。

こうした現地調査にもとづき、観光ルートは、以下の2コースを作成することとなった。合宿形式で和歌山大学の学生らと現地調査の成果をもとに観光ルートの方向性を検討し、その後は、補足調査を通して観光ルートの具体化を進めた。

1)海側コース：羽咋市内の著名な観光資源である千里浜や気多大社をまわる。目下の課題は、ター

ゲットを具体的に設定することと、ターゲットにあわせてコースのオリジナリティを高める。体験型観光の要素も含める。

- 2) 山側コース：羽咋市内の東方面、すなわち山側には海側と比較して観光資源が少ないため、豊財院や永光寺などでの体験メニューや里山風景をじっくり味わうようなコンテンツを中心に、ターゲットを絞り込む。

3.2.3 加賀・白山地区（主担当：北陸大学 長谷川ゼミナール）

3.2.3.1 白山市鶴来地区

白山市の電動アシスト付き自転車による観光コースを整備するにあたり、白山市にレンタル自転車の状況を問い合わせた結果、鶴来地区のみにあることから、白山市においては当地区のみに限定して活動した。また、主として8月22日（月）～8月24日（水）に集中し、10月、11月にも現地調査を行った。

3.2.3.2 加賀地区

加賀市の電動アシスト付き自転車による観光コースを整備するにあたり、加賀市にレンタル自転車の状況を問い合わせた結果、山中、山代、片山津の各温泉地区にあることから、この三地区を起点として活動した。また、主として8月22日（月）～8月24日（水）に集中し、10月には個別調査、11月6日には夏に良かったコースを全員で確認調査、さらに12月10（土）～11日（日）には宿泊して新たな観光資源調査を行った。

4. 調査研究の成果

各地区で以下のようなコースを提案し、マップやコース概要を作成した。

4.1 七尾市（和倉温泉）地区

- ① 能登島コース：和倉温泉→能登島大橋→島の湯→向田→のどじま臨海公園水族館→ガラス美術館→ガラス工房→和倉温泉。32 kmのハードコース。途中のアップダウンや道のでこぼこが激しく、電動アシスト自転車を使っても厳しい。能登島大橋からの透き通った海も見どころ。完走すると達成感が感じられる。途中でバッテリー切れの恐れがあり、充電スポットが必要。
- ② 七尾市街コース：和倉温泉→石崎漁港→小丸山城址公園・花嫁のれん館→一本杉通り→能登食祭市場（往復）の18 km。石崎漁港から海岸線を通る道路は車の通行量も少なく海沿いの景観もよい。アップダウンもあまりなく、電動アシスト自転車を使うことで一般向けのコースとして楽しめる。一本杉通りの古い町並みは観光ガイドが必要。
- ③ 田鶴浜・赤蔵山コース：和倉温泉→田鶴浜野鳥公園→赤蔵山（御手洗池）→七尾湾周回道路→笠師保駅→（のと鉄道に持込み）→和倉温泉駅の15 km。海岸線の景観が素晴らしく、電動アシスト自転車ならば御手洗池に登ることも容易。電動アシスト自転車は重いので鉄道に持込む際に女性一人の場合は苦勞する。

4.2 羽咋市地区

- ① 山ルート：観光資源単体をピックアップするというよりは、サイクリングしていく上で何か「繋がり」を見出して、ルートに盛り込みたいと考えた。

- ・テーマ：「タイムスリップしたかのように感じさせるルート」
- ・ターゲット：「自然に飢えた若者」
- ・羽咋駅→擬音岩→コスモアイル→大通り（JA カフェ、開口笑など休憩）→豊財院（宝物館）→永光寺（座禅体験、イタリアのお坊さん）→吉崎次場遺跡→モダンな水門→羽咋駅。



コスモアイル

- ② 海ルート：海側には、千里浜ドライブウェイや気多大社など、羽咋市内の有力な観光資源があり、

これらを活かしながらも、体験型メニューなどを含めて観光ルートを提案した。

- ・テーマ：「UFOやドライブウェイで有名な羽咋市を電動自転車で自然と共にめぐる」
- ・ターゲット：「自然に触れたい若者」
- ・羽咋駅→擬音岩→コスモアイル→気多大社→大社焼体験→千里浜、千里浜レストハウス

4.3 加賀市・白山市地区

4.3.1 白山市鶴来地区

①白山コース：白山観光連盟→金釵宮→もく遊りん→パーク獅子吼→白山比咩神社→おはぎ屋→横町うらら館→あさひやベーカリー→白山市観光連盟。商店街中心のコースで、コースの中盤に長い上り坂があり、電動アシストを用いても体力的に厳しいことが問題であった。しかし、前半に上り坂を上ってしまい、もく遊りん休憩することで体力を回復することができる。そこからはほぼ下り坂であり、たとえ電動アシスト付き自転車の充電が切れたとしても体力的に負担をかけることはない。観光地に関しては、鶴来の有名な観光地をいくつも効率よく回ることができる。さらに、川沿いの道を走るなど自然に触れることができるため、鶴来の魅力をたくさん発見できるルートであろう。また、おはぎ屋やあさひやベーカリーといった地元の人々に人気な店を入れた点もポイントである。ルートも単純で分かりやすいため、覚えやすく自転車で走りやすいと思われる。

4.3.2 加賀地区

- ①山中ヒルクライムコース：山中温泉→石川県内水面試験場→東谷地区→我谷ダム→栢野の大杉→山中温泉。このコースは山中ヒルクライムの競技コースであるが、電動アシスト付き自転車で走れるか実験的に行った結果、走れることが分かった。ただし、我谷ダムから山中温泉までは、急な下りであるうえにスノーシェッドで暗く、狭く曲がりくねっているので注意が必要であるとの報告があった。
- ②山代～大聖寺コース：山代温泉→大聖寺市街地→寺院群→長流亭→山代温泉。山代温泉から大聖寺までの田園地帯が美しく、大聖寺地内では観光資源が多く、大聖寺駅に自転車を置くとより楽しめるのではないか、との報告があった。
- ③片山津コース：浮御堂→尼御前岬→北前船の里資料館→加佐の岬→雪の科学館→まちカフェ。絶景スポットが盛りだくさんで、潟、海、田園を散策できる。女子にやさしいコース、加賀パフェや片山津ハンバーガーなどのご当地グルメもあり、見学施設も豊富であるとの報告があった。
- なお、加賀市・白山地区では各コースに充電スタンドの設置が必要との課題が出た。

5. 来年度の調査研究計画

能登地区については、七尾市と羽咋市（の民間事業者）が連携し、両者を結ぶ自転車ルートを開発するとともに、自転車の相互貸出し・返却の共同化を図ることが望まれ、両市だけではなく、中能登町・穴水町など周辺市町とも連携して、電動アシスト自転車によるコース設定を増やしていくべきであり、そのための調査が必要であることを提案した。

また、加賀地区については、加賀市の大聖寺地区、山代地区のコースづくりと、充電スタンドの設置場所の検討を課題研究としたい。

6. 調査研究に対する地域からの評価

今回の若い世代を代表する学生による提案は、各地区にとっても有意義な調査研究だったと考えられる。たとえば、レンタサイクルを行っている和倉温泉観光協会としては、今回の提案などを参考として既存の自転車コースを見直し、今後、外国人旅行者も含めた自転車利用の促進を図って行きたいとのことだった。また、加賀地区については、前述した2地区のコースづくりなどを進めたいという意向を伺った。